

5 4時間になる。また、報告書作成・打ち合わせ・移動時間は1週間当たり、平均すると、4.83時間になる。これを介護の能力得点別、介護の仕事内容別及び雇用形態別にみると、介護能力が高い者ほど、あるいは、身体介護と家事援助が同程度の者ほど、あるいは、正社員ほど、介護時間および報告書作成等の時間が長くなっている。

図表 2-1-24 1週間当たりの仕事時間

		1週間当たりの訪問先での介護時間(分)			1週間当たりの報告書作成・打ち合わせ・移動時間(分)		
		平均値	標準偏差	有効数	平均値	標準偏差	有効数
介護能力得点別	低得点(18~48)	572.43	450.17	70	263.11	318.29	65
	中得点(48超~78)	702.68	562.08	157	285.61	309.35	148
	高得点(78超~108)	877.72	494.97	103	305.59	253.31	102
雇用形態別	正社員である	1072.5	693.82	16	381.25	432.79	16
	非正社員(登録型)	704.03	527.94	321	263.76	265.01	302
	非正社員(登録型以外)	1009.09	600.40	22	470.45	337.91	22
	非正社員(わからない)	680.56	395.17	18	270.00	255.66	17
過去1ヶ月間に担当した介護の仕事内容別	身体介護	696.36	566.53	44	296.85	361.45	39
	身体介護と家事援助が同程度	830.59	553.22	194	311.06	360.23	186
	家事援助	657.26	573.85	144	261.51	250.13	139
表合計		752.11	567.84	395	290.23	321	373

7) 介護をしている時間帯は、昼間(「午前中(午前8時から正午までの間)」: 86.0%、「午後(正午から午後5時までの間)」: 84.8%)の時間が多くっており、最も多い時間帯も同じである。これを介護の能力得点別及び雇用形態別にみると、介護能力が高い者ほど、あるいは、正社員ほど、夕方(午後5時から8時までの間)の時間帯に仕事をしている者が多くなっている。

図表 2-1-25 仕事をする時間帯(複数回答)

		早朝	午前中	午後	夕方	夜	深夜	特に決ま っていない	無回答	合計
介護能力得点別	低得点(18~48)	1.4	86.3	79.5	17.8	1.4	1.4	5.5	2.7	73
	中得点(48超~78)	3.1	87.5	88.8	28.8	4.4	0.6	2.5	2.5	160
	高得点(78超~108)	6.4	89.1	88.2	50.9	11.8	3.6	3.6	4.5	110
雇用形態別	正社員である	15.8	89.5	89.5	68.4	21.1	10.5	31.6	0.0	19
	非正社員(登録型)	2.7	89.1	86.3	30.1	5.5	1.8	2.1	2.4	329
	非正社員(登録型以外)	11.5	76.9	80.8	38.5	11.5	3.8	3.8	15.4	26
	非正社員(わからない)	5.6	83.3	88.9	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	18
表合計(複数回答)		4.3	86.0	84.8	32.5	6.0	2.4	3.9	4.1	415
表合計(1つ)		0.0	43.9	41.0	3.6	0.2	1.2	2.9	7.2	415

8) 給与形態は、「時間給」が88.7%、「月給」が5.1%であり、介護能力が高い者ほど、

月給で給与が支払われている。また、登録型非正社員の大多数は、時間給で給与が支払われている（図表14を参照）。

図表 2-1-26 給与形態と金額

別介護能力得点		給与形態(単位:%)				合計	時間給:身体介護(金額)			時間給:家事介護(金額)			時間給:複合(金額)		
		時間給	月給	その他	無回答		平均値(円)	標準偏差	有効数	平均値(円)	標準偏差	有効数	平均値(円)	標準偏差	有効数
		低得点(18~48)	89.0	2.7	2.7		5.5	73	1,232.50	175.31	40	939.90	96.95	50	1,084.36
中得点(48超~78)	93.8	3.1	0.6	2.5	160	1,240.85	155.79	112	948.85	82.12	135	1,087.58	88.29	114	
高得点(78超~108)	85.5	8.2	0.9	5.5	110	1,275.59	227.74	68	970.55	121.28	73	1,111.23	135.44	66	
表合計		88.7	5.1	1.4	4.8	415	1,254.00	180.89	251	961.17	110.70	300	1,099.27	109.03	266
		時間給:区分なし(金額)			月給金額			月収(税込み)							
		平均値(円)	標準偏差	有効数	平均値(円)	標準偏差	有効数	平均値(円)	標準偏差	有効数					
別介護能力得点	低得点(18~48)	1,387.14	1,505.38	7	106,250.00	73,640.46	4	45,020.33	46,358.46	66					
	中得点(48超~78)	893.70	215.00	27	107,064.29	68,305.65	7	50,960.01	39,615.90	156					
	高得点(78超~108)	936.54	220.40	24	175,300.00	54,982.93	10	74,590.26	55,344.67	103					
表合計		957.69	505.56	70	153,688.46	82,882.20	26	60,027.71	52,783.56	388					

時間給の平均金額についてみると、身体介護は1,254円で、家事援助は、961.17円、複合は1,099.27円、区分なしは957.69円である。月給は1か月あたり、平均すると、153,688.46円になる。また、先月の税込みの月収（交通費除く）は平均すると、60,027.71円になる。介護能力が高い者ほど、時間給、月給および月収のすべてに高くなっている。

#### 4. 働き方や仕事に関する希望

1) 働く日数や時間への希望については、「増やしたい」が25.5%、「減らしたい」が5.5%であり、増やしたいと考えている者が多くなっている。これを雇用形態別、介護の仕事内容別及び福祉関係の大学等での学習経験別にみると、登録型非正社員ほど、身体介護が中心である者ほど、あるいは、学習経験がある者ほど、働く日数や時間を増やしたいと考えている者が多くなっている。

図表 2-1-27 働く日数や時間に関する希望

		今のままでいい	増やしたい	減らしたい	日数や時間に関する希望はない	無回答	合計
介護能力得点別	低得点(18~48)	61.6	24.7	6.8	2.7	4.1	73
	中得点(48超~78)	58.8	31.3	4.4	4.4	1.3	160
	高得点(78超~108)	58.2	21.8	8.2	9.1	2.7	110
雇用形態別	正社員である	57.9	15.8	5.3	15.8	5.3	19
	非正社員(登録型)	62.3	28.3	4.0	4.0	1.5	329
	非正社員(登録型以外)	50.0	19.2	15.4	7.7	7.7	26
	非正社員(わからない)	66.7	16.7	16.7	0.0	0.0	18
過去1ヶ月間に担当した介護の仕事内容別	身体介護	51.1	34.0	6.4	8.5	0.0	47
	身体介護と家事援助が同程度	60.8	28.1	6.0	5.0	0.0	199
	家事援助	68.3	20.0	5.5	5.5	0.7	145
福祉関係の大学等での勉強経験の有無別	ある(現在、勉強中も含む)	54.4	31.6	7.0	7.0	0.0	57
	ない	62.5	24.8	5.6	4.7	2.4	339
表合計		61.2	25.5	5.5	5.3	2.4	415

2) 今後の介護の仕事内容については、「身体介護と家事援助を同程度に経験していきたい」(57.8%)が最も多く、次いで、「身体介護を主に経験していきたい」(23.4%)が多くなっている。これを介護の能力得点別にみると、介護能力が低い者ほど、家事援助中心でいきたいと考えている者が多くなっている。

図表 2-1-28 今後、経験していきたい介護の仕事(1つ)

		て身体介護のみを経験していきたい	家事援助も主にあるが、身体介護を主に経験して	同程度に経験して家事援助が	家事援助を主に経験して	家事援助のみを経験して	わからない	無回答	合計
介護能力得点別	低得点(18~48)	0.0	12.3	60.3	15.1	4.1	1.4	6.8	73
	中得点(48超~78)	0.6	26.9	59.4	9.4	0.6	2.5	0.6	160
	高得点(78超~108)	1.8	24.5	62.7	4.5	0.0	2.7	3.6	110
表合計		1.4	23.4	57.8	8.9	1.7	3.6	3.1	415

## 5. 介護の仕事をする上で必要な知識や技能・能力開発

1) 現在、取得している公的資格は、「ホームヘルパー2級」85.5%が最も多く、ついで、「教員」(14.2%)がこれに次いでいる。これを介護の能力得点別にみると、介護能力が高い者ほど、福祉関係の大学等での学習経験別にみると、経験がある者ほど、「介護福祉士」および「ホームヘルパー1級」の資格を取得している者が多くなっている。

図表 2-1-29 取得資格 (複数回答)

		ホームヘルパー1級	ホームヘルパー2級	ホームヘルパー3級	介護福祉士	ケアマネジャー	社会福祉士	看護師・准看護師	保健師	保育師(保父、保母)	理学療養士・作業療養士	管理栄養士・栄養士	調理師	教員	その他の医療・介護・福祉関係の公的資格	無回答	合計
介護能力得点別	低得点(18~48)	1.4	87.7	6.8	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	4.1	0.0	4.1	4.1	16.4	9.6	4.1	73
	中得点(48超~78)	2.5	88.8	7.5	3.8	1.9	0.6	1.9	0.0	5.0	0.0	5.6	3.1	15.6	6.9	3.1	160
	高得点(78超~108)	16.4	80.9	10.0	15.5	3.6	0.0	10.9	0.9	8.2	0.0	5.5	2.7	16.4	10.9	1.8	110
福祉関係の大学等での勉強経験の有無別	ある(現在、勉強中も含む)	12.3	84.2	7.0	24.6	3.5	1.8	3.5	0.0	10.5	0.0	1.8	5.3	21.1	14.0	0.0	57
	ない	5.9	85.8	9.7	3.8	1.8	0.0	4.4	0.3	4.1	0.0	5.9	3.8	13.3	7.7	2.9	339
表合計		7.0	85.5	8.9	6.7	1.9	0.2	4.3	0.2	5.3	0.0	5.1	3.9	14.2	8.4	2.9	415

2) 今後、公的資格を取得したいと考えている者は、63.4%であり、そのなかでも、今後、身体介護を中心に働きたいと考えている者ほど、公的資格の取得意欲が高くなっている。

図表 2-1-30 今後取得したい資格の有無

		取得したい資格はない	取得したい資格がある	無回答	合計
今後、経験していきたい介護の仕事別	身体介護を経験していきたい	16.5	79.6	3.9	103
	身体介護と家事援助が同程度に経験していきたい	31.3	63.3	5.4	240
	家事援助を経験していきたい	47.7	50.0	2.3	44
	わからない	73.3	20.0	6.7	15
表合計		31.3	63.4	5.3	415

取得したい公的資格は、「介護福祉士」(55.9%)と「ケアマネジャー」(44.3%)が多くなっている。これを介護の能力得点別、雇用形態別および福祉関係の大学等での学習経験別にみると、介護能力が高い者ほど、正社員ほど、あるいは、学習経験がある者ほど、「ケアマネジャー」を、これに対して、介護能力が低い者ほど、非正社員ほど、あるいは

は、学習経験がない者ほど、「ホームヘルパー1級」および「介護福祉士」を、取得したいと考えている者が多くなっている。

図表 2-1-31 今後取得を希望する資格（2つ）

		ホームヘルパー1級	ホームヘルパー2級	ホームヘルパー3級	介護福祉士	ケアマネジャー	社会福祉士	看護師・准看護師	保健師	保育師（保父、保母）	理学療養士・作業療養士	管理栄養士・栄養士	調理師	教員	その他の医療・介護・福祉関係の公的資格	合計
介護能力得点別	低得点(18~48)	34.9	4.8	2.4	69.0	32.6	2.4	0.0	0.0	4.8	4.8	4.8	2.4	2.4	7.1	42
	中得点(48超~78)	17.7	3.5	0.9	58.4	46.0	7.1	2.7	0.9	4.4	2.7	3.5	4.4	0.0	7.1	113
	高得点(78超~108)	14.3	2.9	0.0	52.2	53.6	11.6	0.0	1.4	1.4	8.7	4.3	5.8	0.0	5.8	69
雇用形態別	正社員である	16.7	8.3	0.0	16.7	75.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7	8.3	0.0	0.0	12
	非正社員(登録型)	20.5	2.3	0.0	58.7	43.9	9.4	0.9	0.9	3.3	4.7	3.3	5.2	0.5	5.6	213
	非正社員(登録型以外)	28.6	0.0	0.0	85.7	50.0	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	14
	非正社員(わからない)	27.3	9.1	0.0	36.4	18.2	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0	9.1	18.2	0.0	18.2	11
福祉関係の大学等での勉強経験の有無別	ある(現在、勉強中も含む)	15.8	2.6	0.0	52.6	57.9	13.2	2.6	0.0	2.6	10.5	0.0	7.9	0.0	5.3	38
	ない	21.7	3.3	0.9	56.3	41.7	7.4	1.9	0.9	3.7	4.7	5.1	5.1	0.5	6.5	215
合計		20.5	3.1	0.8	55.9	44.3	8.4	1.9	0.8	3.4	5.4	4.2	5.7	0.4	6.1	261

3) 研修などの教育訓練についてみると、第一に、採用時の基礎的な訓練（初期研修）を「受けた」者は80.2%、その評価は、役立っている（「役立っている」+「まあ役立っている」の合計比率：93.4%）が「役立っていない」を上回っている。第二に、実務の中での上司・同僚からの指導を「受けた」者は83.9%、その評価は、役立っている（「役立っている」+「まあ役立っている」の合計比率：95.2%）が「役立っていない」を上回っている。第三に、日常の仕事を離れた研修や講習会を「受けた」者は84.6%、その評価は、役立っている（「役立っている」+「まあ役立っている」の合計比率：92.9%）が「役立っていない」を上回っている。

図表 2-1-32 教育訓練の受講の有無と受講の評価

	件数	受講の有無			件数	受講の評価				
		受けていない	受けた	無回答		役立っていない	あまり役立っていない	まあ役立っている	役立っている	無回答
初期研修	415	14.2	80.2	5.5	333	0.6	5.1	36.0	57.4	0.9
実務の中での上司・同僚からの指導	415	9.2	83.9	7.0	348	0.3	3.2	30.5	64.7	1.4
日常の仕事を離れた研修や講習会	415	11.1	84.6	4.3	351	0.3	6.0	36.2	56.7	0.9

4) 介護の仕事をする上で、必要な知識や技術としては、「痴呆症状のある利用者への対応に関する知識・技術」（82.4%）、「より高度な介護技術」（72.5%）、「高齢者・障害者の心理や生理に関する知識」（79.8%）、「医療・保健の知識」（68.7%）、「高齢者・障

害者との接し方に関する知識・技術」(74.9%)、「福祉用具に関する知識」(71.3%)などが多く指摘されている。

これを介護の能力得点別、雇用形態別および福祉関係の大学等での学習経験別にみると、介護能力が高い者ほど、登録型非正社員ほど、学習経験がある者ほど、介護の仕事をする上で、必要な知識や技術が広範囲に及んでいる。

図表 2-1-33 介護の仕事をする上で必要な知識・技術(複数回答)

		より高度な介護技術	高齢者・障害者の心理や生理に関する知識	高齢者・障害者との接し方に関する知識・技術	高齢者・障害者の家族との接し方に関する知識・技術	痴呆症状のある利用者への対応に関する知識・技術	福祉用具に関する知識	医療・保健の知識	介護保険とその動向に関する知識	勤務する地域の福祉資源に関する知識	円滑なチームワークのために必要な知識・技術	リーダーに求められる知識・技術	その他	無回答	合計
介護能力得点別	低得点(18~48)	78.1	74.0	75.3	58.9	79.5	76.7	67.1	61.6	45.2	47.9	24.7	1.4	9.6	73
	中得点(48超~78)	72.5	83.8	76.9	65.6	86.9	70.6	69.4	66.9	48.8	50.0	30.0	3.8	4.4	160
	高得点(78超~108)	81.8	84.5	78.2	66.4	88.2	77.3	81.8	70.9	63.6	56.4	41.8	7.3	4.5	110
雇用形態別	正社員である	63.2	68.4	68.4	42.1	68.4	73.7	57.9	47.4	42.1	36.8	42.1	0.0	10.5	19
	非正社員(登録型)	74.2	81.2	76.6	62.6	84.2	71.1	70.5	66.6	52.9	49.5	32.8	4.0	6.1	329
	非正社員(登録型以外)	84.6	76.9	73.1	57.7	84.6	76.9	73.1	57.7	50.0	57.7	26.9	0.0	7.7	26
	非正社員(わからない)	61.1	83.3	77.8	72.2	77.8	72.2	55.6	61.1	44.4	44.4	22.2	11.1	16.7	18
福祉関係の大学等での勉強経験の有無別	ある(現在、勉強中も含む)	78.9	80.7	82.5	73.7	89.5	86.0	80.7	73.7	66.7	61.4	43.9	12.3	3.5	57
	ない	72.3	79.6	74.6	59.9	81.7	69.6	67.0	62.5	49.0	47.5	30.7	2.4	8.0	339
合計		72.5	79.8	74.9	61.2	82.4	71.3	68.7	64.3	51.3	48.7	31.8	3.9	7.5	415

5) 今後、身につけたい知識・技術については、「より高度な介護技術」(56.9%)、「痴呆症状のある利用者への対応に関する知識・技術」(48.4%)、「高齢者・障害者との接し方に関する知識・技術」(33.0%)、「高齢者・障害者の心理や生理に関する知識」(32.5%)、「医療・保健の知識」(30.6%)が多く指摘されている。

これを介護の能力得点別にみると、介護能力が高い者ほど、「医療・保健の知識」、「介護保険とその動向に関する知識」、「勤務する地域の福祉資源に関する知識」および「円滑なチームワークのために必要な知識・技術」を、これに対して、介護能力が低い者ほど、「高齢者・障害者の心理や生理に関する知識」、「高齢者・障害者との接し方に関する知識・技術」を、指摘する者が多くなっている。

さらに、福祉関係の大学等での学習経験別にみると、受講経験がある者ほど、「痴呆症状のある利用者への対応に関する知識・技術」、「医療・保健の知識」および「介護保険とその動向に関する知識」を、これに対して、ない者ほど、「高齢者・障害者の心理や生理に関する知識」を、指摘する者が多くなっている。

最後に、今後、経験していききたい介護の仕事内容別にみると、身体介護を中心に考えている者ほど、「より高度な介護技術」、「痴呆症状のある利用者への対応に関する知識・技術」、「福祉用具に関する知識」、「介護保険とその動向に関する知識」及び「勤務する地域の福祉資源に関する知識」を、これに対して、家事援助を中心に考えている者ほど、「高齢者・障害者の心理や生理に関する知識」、「高齢者・障害者との接し方に関する知識・技術」、「高齢者・障害者の家族との接し方に関する知識・技術」を、指摘する者が多くなっている。

図表 2-1-34 身につけたい知識や技術（3つ）

		より高度な介護技術	高齢者・障害者の心理や生理に関する知識	高齢者・障害者との接し方に関する知識・技術	高齢者・障害者の家族との接し方に関する知識・技術	痴呆症状のある利用者への対応に関する知識・技術	福祉用具に関する知識	医療・保健の知識	介護保険とその動向に関する知識	勤務する地域の福祉資源に関する知識	円滑なチームワークのために必要な知識・技術	リーダーに求められる知識・技術	その他	特になし	無回答	合計
介護能力得点別	低得点(18～48)	61.6	37.0	45.2	12.3	49.3	16.4	24.7	9.6	5.5	2.7	0.0	2.7	2.7	4.1	73
	中得点(48超～78)	62.5	32.5	36.3	15.0	55.6	13.1	28.8	21.9	10.6	6.9	2.5	0.6	0.0	1.3	160
	高得点(78超～108)	52.7	28.2	22.7	11.8	41.8	10.0	43.6	25.5	15.5	13.6	8.2	3.6	0.9	0.9	110
福祉関係の大学等での勉強経験の有無別	ある(現在、勉強中も含む)	54.4	28.1	29.8	12.3	52.6	8.8	35.1	28.1	12.3	7.0	3.5	7.0	1.8	0.0	57
	ない	57.8	33.6	33.6	13.6	47.8	12.7	30.1	20.1	11.5	8.3	3.2	1.5	1.8	2.9	339
今後、経験していききたい介護の仕事別	身体介護を経験していききたい	61.2	25.2	32.0	13.6	47.6	17.5	29.1	24.3	15.5	8.7	2.9	4.9	1.0	1.0	103
	身体介護と家事援助が両程度に経験していききたい	56.3	36.3	31.7	12.5	50.4	12.1	32.5	20.4	12.1	7.9	4.2	1.3	0.4	2.9	240
	家事援助を経験していききたい	56.8	36.4	43.2	20.5	40.9	9.1	27.3	18.2	4.5	6.8	0.0	2.3	6.8	0.0	44
	わからない	33.3	20.0	20.0	20.0	26.7	13.3	33.3	20.0	6.7	13.3	13.3	0.0	6.7	6.7	15
合計		56.9	32.5	33.0	13.5	48.4	12.8	30.6	21.0	11.6	8.0	3.6	2.2	1.7	2.7	415

6) 現在、所属（登録）している事業者に対する能力開発に関する希望としては、「無料の研修や講習会を開くこと（増やすこと）」（51.8%）、「実務の中でベテランから指導を受ける機会を設けること（増やすこと）」（48.0%）及び「働き方や仕事内容について上司と相談する機会を設けること（増やすこと）」（39.8%）が多く指摘されている。

これを介護の能力得点別にみると、介護能力が高い者ほど、事業者に対する能力開発に関する希望が広範囲に及んでいる。これに対して、介護能力が低い者ほど、「実務の中でベテランから指導を受ける機会を設けること（増やすこと）」及び施設での介護を経験する機会を望んでいる者が多くなっている。さらに、日常の仕事を離れた研修等の受講状況別、今後、経験していききたい介護の仕事内容別および福祉関係の大学等での学習経験別にみると、研修等を受講した者ほど、身体介護を中心に考えている者ほど、あるいは、大学等での学習経験がある者ほど、事業者に対する能力開発に関する希望が広範囲に及んでいる。

図表 2-1-35 能力開発に対する希望（複数回答）

		仕 組 み の 能 力 を 作 る こ と	介 護 の 能 力 を 適 切 に 評 価 す る	配 置 す る こ と	介 護 の 能 力 に 見 合 っ た 仕 事 に	司 と 相 談 す る 機 会 を 設 け て 上	働 き 方 や 仕 事 内 容 に つ い て	を 受 け る 機 会 を 設 け る こ と	実 務 中 で ベ テ ラ ン か ら 指 導	と	有 料 の 研 修 や 講 習 会 を 開 く こ	と	無 料 の 研 修 や 講 習 会 を 開 く こ	を 設 け る こ と	施 設 で の 介 護 を 経 験 す る 機 会	を 設 け る こ と	在 宅 で の 介 護 を 経 験 す る 機 会	な い	左 記 の よ う な 希 望 は 持 っ て い	無 回 答	合 計
介護能力得点別	低得点(18～48)	12.3	27.4	31.5	58.9	5.5	52.1	23.3	16.4	6.8	4.1	73									
	中得点(48超～78)	26.3	29.4	43.1	45.0	11.9	52.5	20.6	18.8	8.1	4.4	160									
	高得点(78超～108)	41.8	34.5	44.5	48.2	12.7	52.7	17.3	21.8	5.5	4.5	110									
日常の仕事を離れた研修等の受講状況別	受けていない	23.9	30.4	26.1	47.8	6.5	43.5	19.6	17.4	10.9	13.0	46									
	受けた	29.3	31.3	42.2	48.4	10.5	53.6	21.1	18.5	6.3	4.3	351									
福祉関係の大学等での勉強経験の有無別	ある(現在、勉強中も含む)	35.1	28.1	38.6	50.9	8.8	54.4	26.3	15.8	8.8	5.3	57									
	ない	26.8	31.9	40.4	47.8	10.9	52.2	19.8	18.6	6.8	5.9	339									
今後、経験していきたい介護の仕事別	身体介護を経験していきたい	40.8	34.0	41.7	53.4	12.6	51.5	26.2	16.5	3.9	6.8	103									
	身体介護と家事援助が両程度を経験していきたい	27.5	29.6	40.8	48.3	10.0	56.7	21.7	19.6	6.7	3.3	240									
	家事援助を経験していきたい	15.9	29.5	38.6	43.2	9.1	43.2	9.1	15.9	13.6	6.8	44									
	わからない	13.3	20.0	20.0	40.0	6.7	20.0	6.7	13.3	13.3	20.0	15									
合計		28.2	30.6	39.8	48.0	10.4	51.8	20.5	18.1	7.0	5.8	415									



## 6. 働くことや介護の仕事に対する意識

1) 働いている理由は、「生きがい・社会参加のため」(42.9%)が最も多く、次いで、「資格・技能を活かすため」(20.5%)、「家計の足しにするため」(14.2%)がこれに続いている。これを雇用形態別にみると、正社員で、「生活を維持するため」を、これに対して、非正社員で、「生きがい・社会参加のため」を、また、福祉関係の大学等での学習経験別にみると、学習経験がある者ほど、「資格・技能を活かすため」を、これに対して、ない者ほど、「家計の足しにするため」を、指摘する者が多くなっている。

図表 2-1-36 働いている理由(1つ)

		持っている資格を活かすため	これまでの家事や介護の経験を活かせる	親や家族の介護などに役立つから	自分も将来利用する	介護の知識や技能を身につけたから	介護や福祉の仕事に関心があったから	生きがいや社会参加のため	社会のために役立つから	生活を維持するため	家計の足しにするため	就職しやすいから	自分の都合のよい時間に働けるから	その他	無回答	合計
雇用形態別	正社員である	31.6	47.4	31.6	36.8	57.9	63.2	47.4	36.8	21.1	10.5	10.5	36.8	10.5	0.0	12
	非正社員(登録型)	58.1	35.3	57.8	38.6	49.2	52.6	59.3	32.5	16.7	29.8	9.7	59.0	4.0	3.3	213
	非正社員(登録型以外)	73.1	26.9	34.6	26.9	42.3	57.7	50.0	23.1	23.1	69.2	15.4	30.8	3.8	3.8	14
	非正社員(わからない)	38.9	27.8	50.0	38.9	50.0	44.4	66.7	22.2	5.6	22.2	5.6	44.4	11.1	5.6	11
経の学係福 験勉導の社 の強で大関	ある(現在、勉強中も含む)	63.2	38.6	54.4	36.8	54.4	63.2	70.2	38.6	21.1	26.3	5.3	49.1	3.5	3.5	57
	ない	54.6	35.1	53.7	39.5	48.1	51.6	57.8	31.0	16.5	31.9	10.9	55.2	4.7	3.2	339
裏合計(複数回答)		56.4	34.9	53.7	38.3	48.7	52.5	59.0	31.6	17.6	30.8	9.9	53.7	4.3	3.1	415
裏合計(1つ)		10.1	3.9	11.6	3.6	4.3	12.5	19.8	5.3	3.4	2.7	1.0	7.0	2.9	12.0	415

2) 介護の仕事に就いた理由については、「生きがいや社会参加のため」(59.0%)、「介護や福祉の仕事に関心があったから」(52.5%)、「持っている資格を活かすため」(56.4%)、「自分の都合のよい時間に働けるから」(53.7%)、「親や家族の介護などに役立つから」(53.7%)が多く指摘されている。(また、最大の理由も同じである。)

これを雇用形態別にみると、正社員で、「介護の知識や技能を身につけたかったから」および「介護や福祉の仕事に関心があったから」を、これに対して、登録型非正社員で、「持っている資格を活かすため」、「持っている資格を活かすため」および「親や家族の介護などに役立つから」を、指摘する者が多くなっている。また、福祉関係の大学等での学習経験別にみると、受講経験がある者ほど、介護の仕事に就いた理由が広範囲に及んでいる。これに対して、ない者ほど、「家計の足しにするため」および「自分の都合のよい時間に時間に働けるから」を、指摘する者が多くなっている。

図表 2-1-37 介護の仕事に就いた理由（1つ）

		活かすため	せるから	これまで	親や家族	ら	自分も	ら	ら	に	加	社	め	た	か	時	そ	無	合
		かすため	るから	れまで	や家族	ら	自分も	ら	に	加	社	め	た	か	時	そ	無	合	
雇用形態別	正社員である	31.6	47.4	31.6	36.8	57.9	63.2	47.4	36.8	21.1	10.5	10.5	10.5	36.8	10.5	0.0	12		
	非正社員(登録型)	58.1	35.3	57.8	38.6	49.2	52.6	59.3	32.5	16.7	29.8	9.7	59.0	4.0	3.3	213			
	非正社員(登録型以外)	73.1	26.9	34.6	26.9	42.3	57.7	50.0	23.1	23.1	69.2	15.4	30.8	3.8	3.8	14			
	非正社員(わからない)	38.9	27.8	50.0	38.9	50.0	44.4	66.7	22.2	5.6	22.2	5.6	44.4	11.1	5.6	11			
経の学係福 験勉等の社 の強で大関	ある(現在、勉強中も含む)	63.2	38.6	54.4	36.8	54.4	63.2	70.2	38.6	21.1	26.3	5.3	49.1	3.5	3.5	57			
	ない	54.6	35.1	53.7	39.5	48.1	51.6	57.8	31.0	16.5	31.9	10.9	55.2	4.7	3.2	339			
表合計(複数回答)		56.4	34.9	53.7	38.3	48.7	52.5	59.0	31.6	17.6	30.8	9.9	53.7	4.3	3.1	415			
表合計(1つ)		10.1	3.9	11.6	3.6	4.3	12.5	19.8	5.3	3.4	2.7	1.0	7.0	2.9	12.0	415			

3) 現在、所属（登録）している事業者について、「近いうちに辞めるつもりである」は3.6%、「辞めるつもりはない」は79.7%（「当分辞めるつもりはない」＋「辞めるつもりはまったくない」の合計比率）であり、辞めるつもりはない者が圧倒的に多い。ただし、「わからない」も14.0%存在している。これを介護の能力得点別および福祉関係の大学等での学習経験別にみると、介護能力が高い者ほど、あるいは、学習経験がある者ほど、所属している事業者を辞めようと考えている者が多くなっている。

図表 2-1-38 事業者を辞める予定

		近いうちに辞めるつもりがある	当分辞めるつもりはない	辞めるつもりはまったくない	わからない	無回答	合計
介護能力得点別	低得点(18～48)	0.0	63.0	19.2	16.4	1.4	73
	中得点(48超～78)	3.1	63.8	19.4	10.0	3.8	160
	高得点(78超～108)	5.5	52.7	26.4	14.5	0.9	110
福祉関係の大学等での勉強経験の有無別	ある(現在、勉強中も含む)	7.0	64.9	15.8	8.8	3.5	57
	ない	3.2	56.9	23.0	14.2	2.7	339
合計		3.6	57.3	22.4	14.0	2.7	415

4) 介護の仕事について、「続けたい」（「できるだけ続けたい」＋「しばらく続けたい」の合計比率：94.4%）と考えている者が、「他の仕事に変わりたい」（「機会があれば、他の仕事に変わりたい」＋「できるだけ早く、他の仕事に変わりたい」の合計比率：2.4%）と考えている者を大きく上回っている。これを介護の能力得点別および福祉関係の大学等での学習経験別にみると、介護の能力得点が高い者ほど、あるいは、学習経験がある者ほど、できるだけ続けたいと考えている者が多くなっている。

図表 2-1-39 介護の仕事に対する今後の予定

		できるだけ 続けたい	しばらくは 続けたい	機会があ れば、他の 仕事に変 わりたい	できるだけ 早く、他の 仕事に変 わりたい	無回答	合計
介護能力得点 別	低得点(18～48)	61.6	34.2	1.4	1.4	1.4	73
	中得点(48超～78)	61.9	31.3	2.5	0.0	4.4	160
	高得点(78超～108)	76.4	19.1	1.8	0.9	1.8	110
福祉関係の大学等での勉強 経験の有無別	ある(現在、勉強中も含む)	73.7	21.1	1.8	0.0	3.5	57
	ない	64.9	29.2	2.1	0.6	3.2	339
合計		66.0	28.4	1.9	0.5	3.1	415

## 7. 簡単なまとめ

アンケート調査から明らかになった点を簡単にまとめておこう。

1) これまでの介護の仕事経験について、第一に、施設介護と在宅介護という側面からみると、「施設」介護のみは少数であり、程度の差はあり、「在宅」介護の経験者が多くなっている。「在宅介護」の経験者のなかでは、「在宅のみ」が7割強占め最も多く、ついで、「施設もあるが在宅が主」が1割強で次いでおり、多くの「在宅」介護の経験者のなかでも、「施設」介護を主体としている者が多くを占めている。

第二に、身体介護と家事援助という側面からみると、「身体介護のみ」および「家事援助のみ」の経験者は少なく、両方とも経験してきた者が多くなっている。両方の経験者のなかでは、「主に家事援助」が4割強を占め最も多く、次いで、「身体介護と家事援助を同程度」が4割弱を占め次いでいるが、介護能力が高い者ほど、身体介護の経験者が多くなっている。

2) 過去1か月に介護した利用者の延べ人数は平均すると、9.41人になる。これを介護能力の得点別にみると、介護能力が高い者ほど、介護した利用者の延べ人数が多くなっている。また、過去1か月に担当した介護の仕事内容は、「身体介護と家事援助が同程度」が5割弱を占め最も多く、ついで、「家事援助が主」が3割弱でこれに次いでいるが、介護能力が高い者ほど、仕事内容に身体介護が含まれている者が多くなっている。

3) 働く日数や時間への希望については、「増やしたい」が3割弱、「減らしたい」が1割弱であり、増やしたいと考えている者が多くなっているが、介護の仕事内容が身体介護が中心である者ほど、時間を増やしたいと考えている者が多くなっている。また、今後の介護の仕事内容の希望についてみると、「身体介護と家事援助を同程度に経験してい

きたい」が6割弱で最も多く、次いで、「身体介護を主に経験していきたい」が2割強で次いでいるが、介護能力が低い者ほど、家事援助中心でいきたいと考えている者が多くなっており、自分の現在の能力レベルに合わせた働き方を望んでいる。

4) 現在、取得している公的資格は、「ホームヘルパー2級」が9割弱を占め最も多く、ついで、「教員」が1割強を占めている。これを介護の能力得点別にみると、介護能力が高い者ほど、「介護福祉士」および「ホームヘルパー1級」の資格を取得している者が多くなっている。また、今後、取得したい公的資格は、「介護福祉士」が6割弱を占め最も多く、ついで、「ケアマネジャー」が4割強を占めているが、介護能力が高い者ほど「ケアマネジャー」を、これに対して、介護能力が低い者ほど「ホームヘルパー1級」および「介護福祉士」を、取得したいと考えている者が多くなっており、自分の現在の能力レベルの向上に見合うような形で公的資格の取得を目標に置いているのであろう。

5) 今後、身につけたい知識・技術については、「より高度な介護技術」、「痴呆症状のある利用者への対応に関する知識・技術」、「高齢者・障害者との接し方に関する知識・技術」、「高齢者・障害者の心理や生理に関する知識」、「医療・保健の知識」が多く指摘されている。こうした身につけたい知識・技術は、個人の介護能力レベルにより異なり、介護能力が高い者ほど、「医療・保健の知識」、「介護保険とその動向に関する知識」、「勤務する地域の福祉資源に関する知識」および「円滑なチームワークのために必要な知識・技術」を、これに対して、介護能力が低い者ほど、「高齢者・障害者の心理や生理に関する知識」、「高齢者・障害者との接し方に関する知識・技術」を、指摘する者が多くなっており、現在の自分の能力レベルに見合った知識・技術を修得していきたいと考えている。

6) 現在、所属（登録）している事業者に対する能力開発に関する希望としては、「無料の研修や講習会を開くこと（増やすこと）」、「実務の中でベテランから指導を受ける機会を設けること（増やすこと）」及び「働き方や仕事内容について上司と相談する機会を設けること（増やすこと）」が多く指摘されている。こうした能力開発に関する希望は、個人の介護能力レベルにより異なり、介護能力が高い者ほど、事業者に対する能力開発に関する希望が広範囲に及んでいる。これに対して、介護能力が低い者ほど、「実務の中でベテランから指導を受ける機会を設けること（増やすこと）」及び「施設での介護を経験する機会」を望んでいる者が多くなっており、直接的、かつ、短期間に能力が向上するための指導や場の提供を望んでいることが伺える。

(大木栄一)

## 第2章 施設職員（介護職員）の職務能力

(I) 堀田聡子

(II) 大木栄一

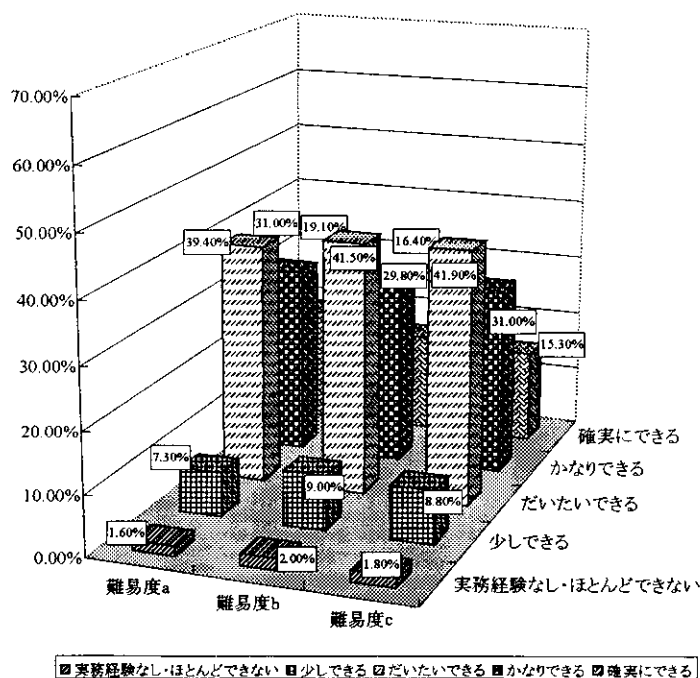
### I. 施設職員（介護職員）の仕事と能力

#### 1. 仕事の難易度と能力

有効な回答を得られた 914 人について、仕事の難易度と能力の関係を概観する。なお、ここでは仕事の難易度は a～c の 3 段階であり、能力レベルは「実務経験があり確実にできる」、「実務経験がありかなりできる」、「実務経験がありだいたいできる」、「実務経験があり少しできる」、「実務経験なし・ほとんどできない」の 5 段階である。

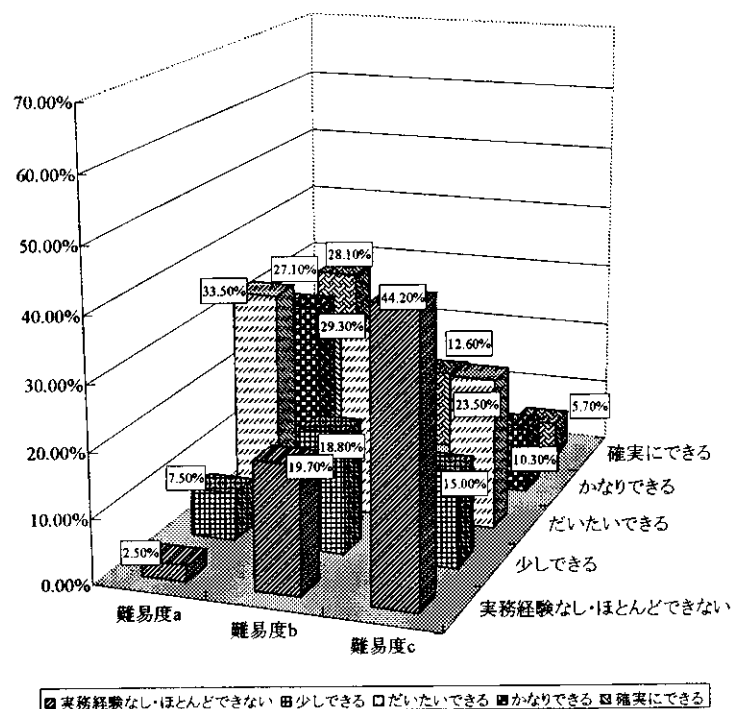
- 1) 「ベッドメイク」以外の課業については、いずれも仕事の難易度にかかわらず「だいたいできる」者が 3～5 割程度と最も多くなっている。
- 2) 「食事介助」「排泄介助」「更衣介助」「入浴介助」「体位変換」「移乗介助」「掃除」「健康チェック」「説明」「関係構築」「情報収集と判断」「協働」については、いずれも仕事の難易度にかかわらず「実務経験なし・ほとんどできない」という者は 1 割に満たなかった。

図表 2-2-1 移乗介助



- 3) 「ベッドメイク」は、難易度 a の仕事については「確実にできる」「かなりできる」の合計が過半数を占めるのに対し、難易度 c の仕事については「実務経験なし・ほとんどできない」が4割以上を占めている。

図表 2-2-2 ベッドメイク

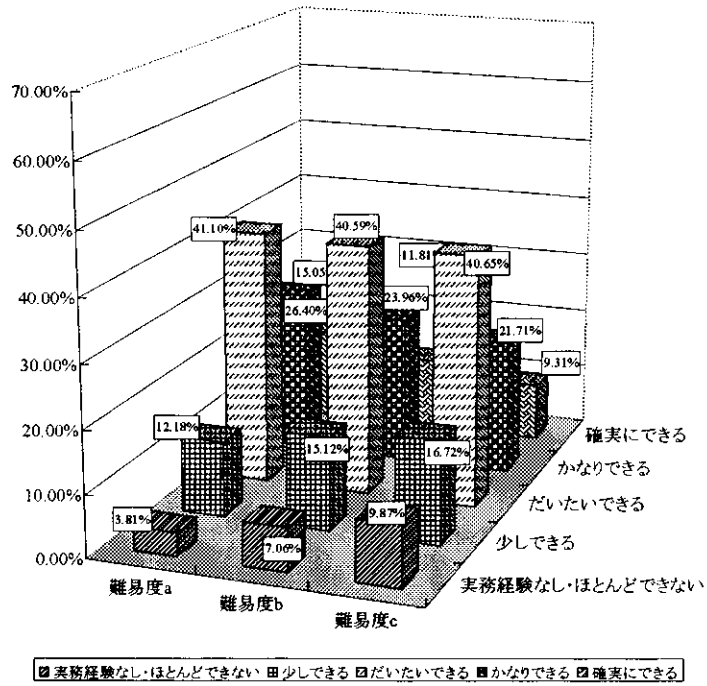


- 4) 該当する仕事について括った「総合」「身体介護<sup>1</sup>」でみると、仕事の難易度にかかわらず「だいたいできる」「かなりできる」の合計が約4割に達しており、仕事の難易度が上がるにつれて、「かなりできる」「確実にできる」者の割合が概して小さくなる傾向にある。
- 5) 「家事援助<sup>2</sup>」についてみると、仕事の難易度にかかわらず「確実にできる」「かなりできる」「だいたいできる」の合計が6～8割に達している。

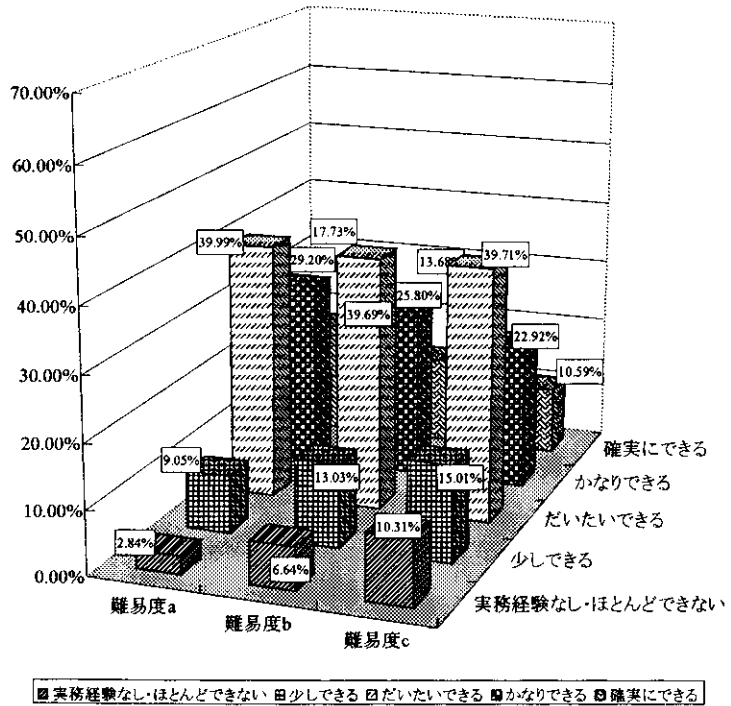
<sup>1</sup> ここでの身体介護は、食事介助、排泄介助、更衣介助、入浴介助、清拭、ベッドメイク、体位変換、移乗介助、外出介助、健康チェックを指している。

<sup>2</sup> ここでの家事援助は、ベッドメイク、掃除、健康チェックを指している。

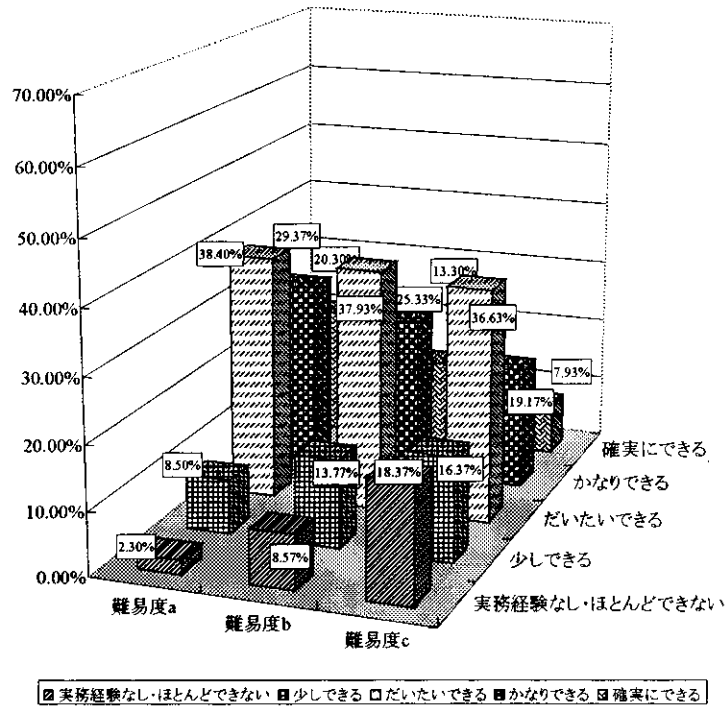
図表 2-2-3 総合



図表 2-2-4 身体介護



図表 2-2-5 家事援助



## 2. 指導経験・指導能力

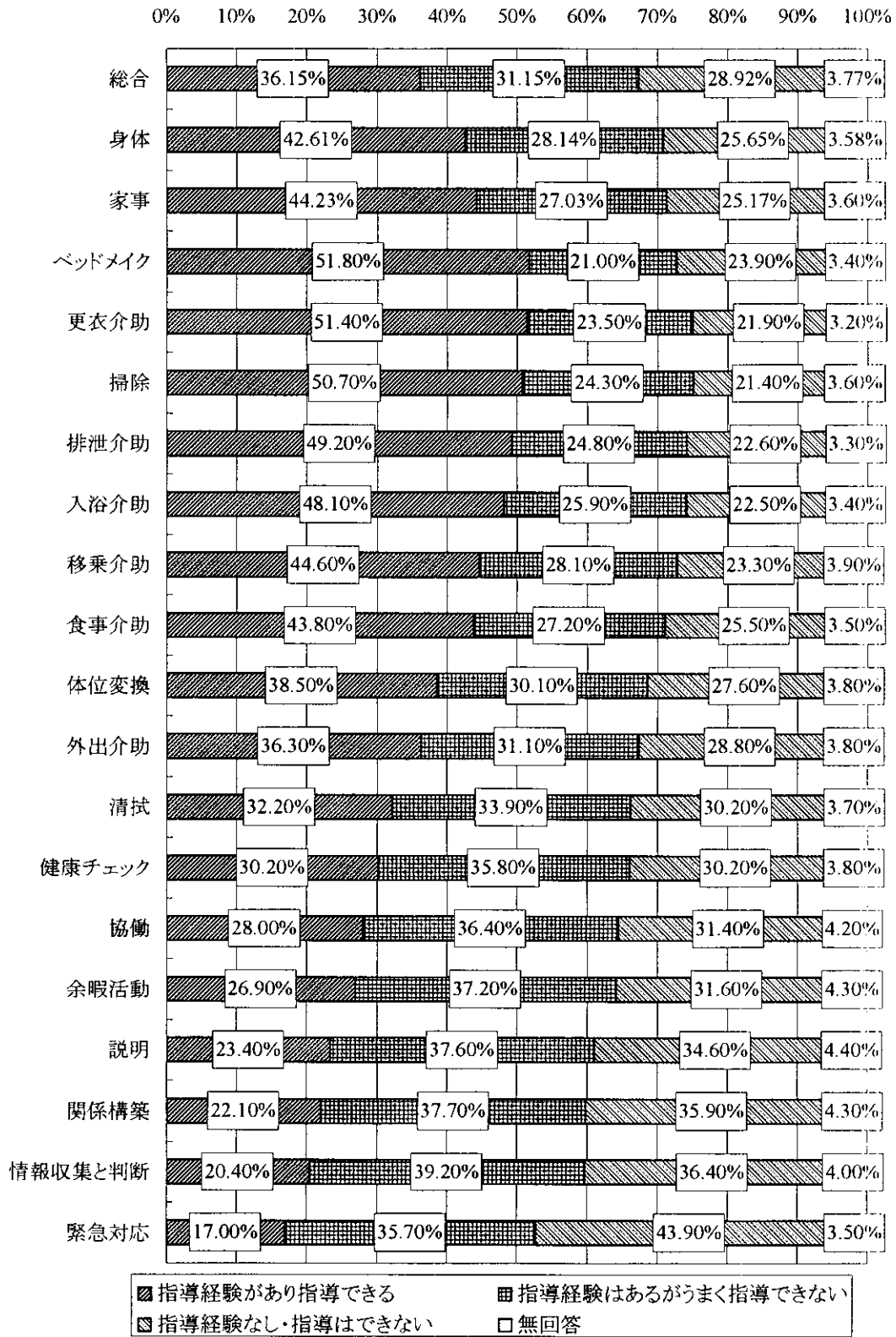
本節では、有効な回答を得られた 914 人について、指導経験と指導能力を概観する。

- 1) 全体では、「指導経験があり指導できる」が 36.15%、「指導経験はあるがうまく指導できない」が 31.15%、「指導経験なし・指導はできない」が 28.92%となっている。なお、身体介護と家事援助を比較すると、指導経験・指導能力に大きな差は認められない。
- 2) 「説明」「関係構築」「情報収集と判断」「協働」など人間関係スキル<sup>3</sup>については、「指導経験があり指導できる」は 10～20%台にとどまる一方、「指導経験はあるがうまく指導できない」が 4 割近くにのぼるなど、指導の難しさが示されている。

<sup>3</sup> ここでの人間関係スキルは、緊急対応、説明、関係構築、情報収集と判断、協働 を指している。



図表 2-2-6 指導経験・指導能力



### 3. 介護能力得点

#### (1) 介護能力得点の算出方法

介護能力得点は、各課業の難易度別の仕事に対する遂行能力に関する回答と、各課業の指導経験・指導能力に関する回答から作成した。

まず、難易度別の仕事に対する遂行能力については、「実務経験があり確実にできる」に5点、「実務経験がありかなりできる」に4点、「実務経験がありだいたいできる」に3点、「実務経験があり少しできる」に2点、「実務経験なし・ほとんどできない」に1点を割り当て、指導経験・指導能力については、「指導経験があり指導できる」にのみ1点を割り当て、「指導経験はあるがうまく指導できない」「指導経験なし・指導はできない」は加算対象としない。

各課業の能力得点は、難易度別の仕事に対する遂行能力の得点を課業ごとに合計したものを3で除し、指導経験・指導能力の得点を加えたものとした（最高6点）。さらに、各課業の能力得点を全課業について合計したものを介護能力の総合得点とし（最高102点）、身体介護分野のみの合計得点（最高60点）、家事援助分野のみの合計得点（最高18点）も算出した。

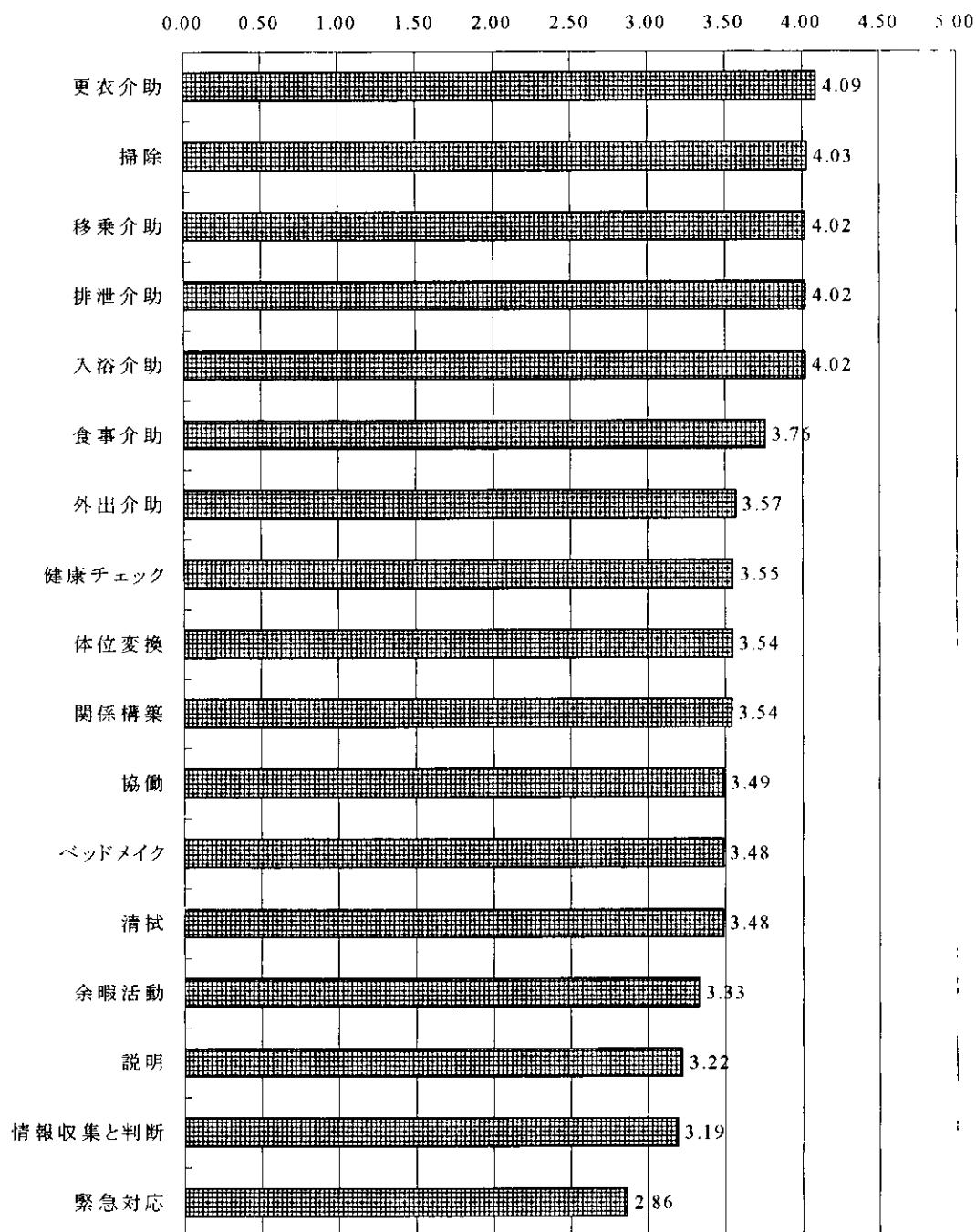
なお、難易度別の仕事に対する遂行能力について「実務経験なし・ほとんどできない」に1点を割り当てたのは、実務経験がなくても、ヘルパー2級の資格取得者など、研修を受け一定の介護能力を保持している者がほとんどであることによる。

ここからは、問1と問2のすべてに回答があった777人について、介護能力得点を中心とした分析を行う。

## (2) 介護能力得点の分布

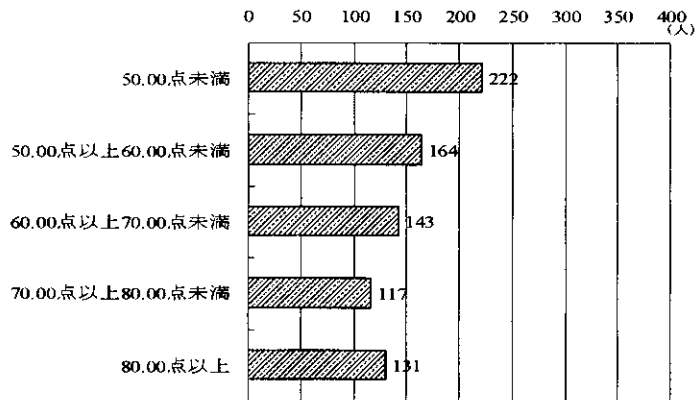
- 1) まず、課業別に介護能力得点をみると、最も高い「更衣介助」4.09点から、最も低い「緊急対応」2.86点までの間に分布している。
- 2) 概して身体介護分野の課業の得点が高くなっている。一方、人間関係スキルに分類される課業、余暇活動は得点が低い傾向にある。

図表 2-2-7 課業別介護能力得点

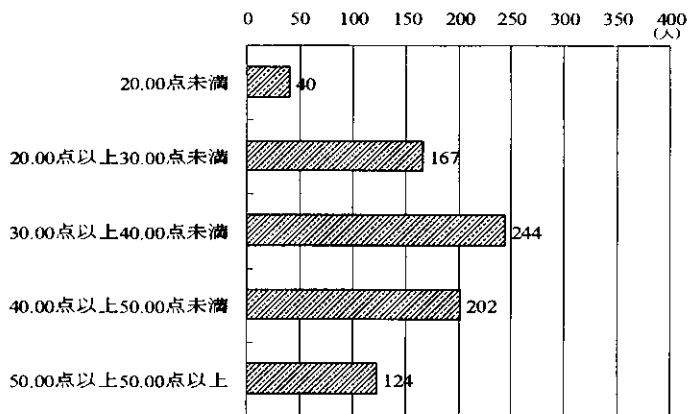


3) 介護能力の総合得点をみると、50点未満が多くなっている。身体介護分野についてみると、30点以上50点未満が6割を占めている。家事援助分野については、10点以上15点未満が約半数にのぼっている。

図表 2-2-8 介護能力得点（総合）



図表 2-2-9 介護能力得点（身体介護）



図表 2-2-10 介護能力得点（家事援助）

